

3 国宝四城比較一覧

| | 姫路城 | 彦根城 | 松本城 | 犬山城 |
|---------|--|--|---|---|
| 所在地 | 兵庫県姫路市本町 | 滋賀県彦根市金亀町 | 松本市丸の内 | 愛知県犬山市東丸の内 |
| 天守築造年 | 池田輝政 慶長6年(1601)から14年にかけて築造 天守は1608年(棟上) 1609年完成 西の丸築城は本多忠政 元和4年(1618)築造 | 慶長8年(1603)から約20年をかけて天下普請で築城(12の大名) 天守は慶長11年(1606)完成 京極家大津城の天守移築改造と言われる。 | 文禄2年から3年(1593~94)天守・渡櫓・乾小天守 寛永10年から11年(1633~34)辰巳附櫓・月見櫓を増設 | かつては美濃金山城天守の移築説があったが現存天守は慶長6年(1601)小笠原吉次が築造。 1・2階 慶長6年新設 最上階 元和6年(1620) 3階部分の唐破風を付設。1・2階の大棟を下げ最上階の廻縁と高欄を設置。 |
| 近世城郭史区分 | 慶長後期 | 慶長後期 | 天正・文禄期 元和以降 | 慶長後期 |
| 築造者 | 池田輝政(徳川方) | 井伊直継・井伊直孝 | 石川数正・康長 | 小笠原吉次 |
| 形式 | 渦郭式平山城(姫山) | 連郭式平山城(比高50m) | 梯郭式+輪郭式 平城 | 連郭式平山城(比高40m) |
| 別称 | 白鷺城 | 金亀城(こんきじょう) | 深志城 | 白帝城 |
| 高さ | 天守 31.5m 天守台 16m | 天守 約15.5m 天守台 約4.9m | 天守 29.4m 天守台 約5m | 天守 約18m 天守台 約5m |
| 石垣 | 千の櫓・上山里曲輪・菱の門東側に秀吉時代の古式の石垣存在。転用石 | 天守石垣は牛蒡積み、山崎曲輪の石垣は屏風折れの石垣、転用石 地盤の弱い部分の鉢巻石垣 | 野面積の石垣 | 野面積の石垣 |
| 天守台 | 一階北辺が南辺より3分の1間長い台形 不等辺矩形 | 石垣内に階段室あり 間口11間・奥行7間 | 天守台内部に16本の木の土台支持柱を埋め込んである。上面は4周とも内側に湾曲した糸巻型 | 天守台東面が斜めで天守台は台形。 南側11間北側10間 |
| 天守形式 | 望楼型 5重6階 地下1階 | 望楼型 3重3階 | 望楼型天守の形式と層塔型天守の双方の特徴を持つ。5重6階 | 望楼形 3重4階 地下2階 |
| 天守構成 | 連立式(5重天守・3重乾小天守・西小天守・東小天守) | 複合式天守(天守・付櫓・多間櫓) | 連結複合式(天守・渡櫓・乾小天守・辰巳附櫓・月見櫓) | 複合式天守 |
| 天守平面 | 1・2階 長辺13間(1階南のみ14間)短辺10間中央身舎は長方形3階より矩形平面 | 長辺11間・短辺7間で層塔型での建造不可能 東西19m・南北11m | 長辺東西9間・短辺南北8間。四周とも内側に湾曲糸巻型で不等辺矩形 1階身舎部分は7間6間の長方形。湾曲部分を武者走りで調節して入側柱内は正しい長方形 | 1階平面8間×9間 (18m×15m) |

| | 姫路城 | 彦根城 | 松本城 | 犬山城 |
|-------|---|-------------------------------|---|-------------------------------------|
| 天守地階 | 天守台石垣内部に構築 東北隅・西南隅に便所各3 北側水流しあり 居住空間として使用 | 階段室あり | なし | 地下2階 |
| 天守1階 | 同一構造。南北に母屋内を分け、北側は納戸で3分 狭間・石落あり | 初重入母屋破風両翼に切妻破風 | 倉庫 | 一階上段の間押床・違棚城主の間 (幕末作) |
| 天守2階 | | 二重目装飾金具の唐破風と入母屋破風 | 武者嘗所 | 武具の間。棚あり |
| 天守3階 | 母屋1室・中二階あり南北入側外側に武者走あり 石打棚 | 三重入母屋破風の屋根に唐破風・高欄付き廻縁 | 倉庫 | 入母屋と唐破風より採光破風の間 |
| 天守4階 | 3階と同一構造 石打棚 | | 御座所 | 望楼 高欄の間 |
| 天守5階 | 第4重の屋根裏階 | | 作戦会議室 | |
| 天守6階 | 4周に入側を設け1室 棹縁天井・舞良戸・明障子書院造りの住宅風意匠 | | 望楼 | |
| 柱・梁 | 中央部地下から5階まで心柱2本・通し柱 柱間6尺5寸京間寸法 | 通し柱なし 手斧削りあり 柱間6尺5寸京間寸法 | 心柱なし。2階ごとの側柱・入側柱は通柱110本。管柱は110本 2階ごとのブロックを3つ積み重ねてある。 | 天守を支える地階に中吊りの土台材が見える。 手斧削りがみられる。 |
| 窓 | 乾小天守に火灯窓 出窓・連格子・土戸・二連三連・鉄格子窓 | 1階突き上げ戸・2階3階に花頭窓 | 武者窓・豎格子窓、突上棘 乾小天守と辰巳附櫓に花頭窓あり 2階・4階に引き戸あり | 1階開き戸 2階突上戸 最上階花頭窓は装飾 |
| 石落 | 塗籠め袴腰型(中央) 唐破風造の出窓型 | なし | 天守代天端に合わせて天守・乾小天守設置 | 石落1箇所 |
| 狭間 | 姫路城内約500の狭間 | 隠し狭間あり | 天守に115の狭間あり | |
| 廻縁・高欄 | なし | 3階高欄つき廻縁 | 6階は高欄つきの設計であったが途中で設計変更 月見櫓に刎高欄と廻縁あり | 4階高欄・廻縁 |
| 壁 | 白漆喰塗籠。最上階柱形を見せた塗籠の真壁造り | 惣塗籠大壁造り | 惣塗籠大壁造り | 最上階白木柱を見せる真壁造り |
| 下見板 | なし | 天守1階部分 | 下見板張りには天守・渡櫓・乾小天守・辰巳附櫓にあり | 天守1階部分 |

| | 姫路城 | 彦根城 | 松本城 | 犬山城 |
|------|---|--|---|---|
| 屋 根 | 本瓦葺 | 鯨・金箔鯨瓦 | 本瓦葺 | 本瓦葺 |
| 破 風 | 千鳥破風・唐破風 | 切妻破風・唐破風 | 千鳥破風・唐破風 | 3階屋根裏階、唐破風より採光 |
| 門 | 17の城門建築いずれも重要文化財。 (水の五門は国宝)・「ぬ」の門は鉄門・「と」の1門は透扉 | 大手口・表門口・東門口・黒門口・山崎口 5つの城門 内城域(二の丸)佐和口・京橋口・船町口・長橋口が開かれている。 | 黒門は復興・太鼓門は復元 | 本丸門、完全な復元ではない。 |
| 堀・土塁 | 螺旋上に3重の堀 内堀・中堀・外堀 土塁部分的に残る | 金亀山の周囲を琵琶湖と連絡する内堀。中堀 外堀・空堀(切堀)縦堀と登り石垣のセットが5条あり 内堀鉢巻、腰巻土塁あり | 総堀・外堀・内堀 総堀・外堀の周囲に土塁 (総堀残存土塁三ヶ所あり) 西総堀残存土塁は国史跡 | 背後は木曾川の断崖。高所に本丸、南へ二の丸・三の丸と順次下がるように石垣を組む。その南側平地に侍町周囲に外堀と土塁を回す。 |
| 御 殿 | | 表御殿(復元) 楽々園(城主の日常生活の屋敷・榎御殿)玄宮園(接待饗応)回遊式庭園数奇屋茶亭 | | |
| 馬 屋 | | 厩・・全国城郭中唯一の遺構 | | |
| 保 存 | 明治13年 太政官令で保存決定 明治15年 備前丸焼失 明治43年 天守修理工事 昭和26年 国宝指定 昭和31年より8年間の復元修理 | 明治初期の廃城を免れ、明治天皇北陸巡行のおり大隈重信は地元の熱い保護要請を受け明治天皇に保存を訴え修復された。その後彦根城と城下町は戦火にあわず、昭和27年国宝指定 昭和32-35年天守解体修理工事 | 明治5年1月競売に付されたが市川量造らの努力で買い戻される。明治34年から大正2年にかけて小林有也らの努力で明治の大修理。昭和11年国宝。昭和25年から30年にかけて国の直轄として解体復元工事。昭和27年国宝再指定 | 維新後廃城後、区長堀野良平らの保存運動で破却を免れる。県有公園となる。 明治24年濃尾地震で大破修理を条件に明治政府は旧主成瀬家に譲渡。明治32年修理竣工 平成16年「財団法人犬山白帝文庫」所有となる。 |
| 遺 構 | 大天守・西小天守・乾小天守・東小天守・天守丸渡櫓・天守丸台所・現在天守群等80余棟が現存。天守群8棟国宝、その他74棟重要文化財107haが特別史跡 三の丸以内は特別史跡 平成5年12月10日 世界文化遺産登録 | 天守及び付櫓・続多聞櫓(国宝) 天秤櫓(重要文化財) 西の丸三重櫓(重要文化財) 佐和口門続櫓・佐和口多聞櫓・二重櫓・厩(国指定重要文化財9) 世界文化遺産暫定登録記載済 | 天守・渡櫓・乾小天守 辰巳附櫓・月見櫓 内堀・外堀(一部)総堀(一部)西総堀土塁(残存) | 天守 |

| | 姫路城 | 彦根城 | 松本城 | 犬山城 |
|---------|--|---|---|---|
| 城下町 | 内曲輪(居館・天守群)中曲輪(武家屋敷・寺社)外曲輪(町屋・寺社) 空襲により焼失 | 内堀の外側二の丸には上級武家屋敷。中堀を隔てて三の丸が置かれ三の丸外堀の東と南の外周に城下町が展開 | 町人地は城郭の南部と東部に展開。上級家臣団は三の丸。下級中級武士は城郭北部並びに東総堀東部近世の景観は明治期の大火で消失 善光寺街道の道筋、前方遮断の道路の跡、町割りの跡残っている。 | 城下町は市街化が進み古い町並みは少なくなった。 南方に広がる城下は町屋を中央の縦筋にとり両側に侍屋敷、寺院を配し外堀を廻している。 |
| 歴代城主 | 8家13代 池田・本多・松平・榊原・松平・酒井 | 井伊家16代 | 6家23代 石川・小笠原・前戸田・松平・堀田・水野・後戸田 | 元和3年以降尾張藩成瀬氏9代 |
| 歴史的的重要性 | 1600(慶長5)年の関ヶ原の合戦後、家康からその戦功で池田輝政が入城し、1601(慶長6)年現存する大・小天守を構えた。家康側の西国の押さえの城郭として築城された。天守は慶長13年棟上をおこない翌年には竣工した。姫路城を中核として淡路岩屋城・同由良城・播磨明石城・播磨高砂城・播磨赤穂城・備前下津井城などを大坂夏の陣までに築城改築し大坂城包囲網が形成されている。 | 戦略的観点から築城・国替えなし。西は琵琶湖、東は中山道と北国街道が交わる。京都に隣接して水陸両交通、戦略上の最重要拠点・琵琶湖上を掌握し大坂城の豊臣勢力を封じ込める要としての、いわば西国の押さえとしての城郭である。 | 1590年小田原の戦い以後秀吉が関東の家康を監視する城として造らせた。沼田・上田・小諸・松本・高島・甲府の諸城の要の城。鉄砲戦に備えた戦略的な性格の強い城郭。寛永10年から翌年にかけて家光の従兄弟松平直政により造られたと推定される辰巳附櫓・月見櫓が複合。泰平の世の城郭が複合 | 犬山は東は可児、多治見、北は木曾川をはさんで各務原、西は丹羽郡、南は小牧に接し交通の要衝であり、また、木曾川の用材管理の拠点となっていた。 |